

平成 30 年 10 月 13 日(土)、平成 30 年度の新潟精神医学会（場所：新潟グランドホテル、会長：新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野 染矢俊幸教授）に参加しました。当院の北村医師が一般演題として、『精神科長期入院患者におけるサルコペニアの有病率』を発表しました。

サルコペニア（sarcopenia）とは、筋肉（sarx）と減少（penia）を組み合わせた造語です。1 年以上にわたり精神科療養病棟に入院している 60 歳以上の患者において、「筋量と筋力の進行性かつ全身性の減少に特徴づけられる症候群で、身体機能障害、生活の質、死亡のリスクを伴うもの」（2010 年に発表された欧州サルコペニア作業グループの同意による）と定義されるサルコペニアの有病率は約 26%でした。本発表を通して、聴衆の皆様はサルコペニアについて関心を持っていただけたようで大変有意義でした。

特別公演は、独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター院長 樋口進先生による『スマホ・ゲーム依存とその対応』でした。ギャンブル障害など行動嗜癖に苦しむ成人患者さんの受診が、当院でも徐々に増えつつありますが、スマホ・ゲーム依存の公式診断名であるゲーム障害

(ICD-11 案) も、思春期・青年期の若者に相当数潜在しているようで、大変心配になりました。治療体制の整備が急務と思われます。